

## 平成 23 年度生涯学習センター自己点検・評価報告書

### 1 理念・目的

#### (1) 大学・学部・研究科等の理念・目的は、適切に設定されているか。

##### 現状説明

平成 13 年 4 月 1 日から施行している学校法人東京理科大学生涯学習センター規程において、「大学の研究成果及び教育機能を活用し、広く学内外に生涯学習機会を提供し、キャリア開発及び多様な学習意欲にこたえる活動を通して、社会に貢献する」という理念・目的を明確にしている。その目的を達成するために、一般市民を対象とする公開講座及び本学学生を対象とする資格取得講座等を開講している。

##### 点検・評価

#### (1) 効果が上がっている点

生涯学習センターの規模の拡充とそれに伴う広報活動の充実は、本学の生涯学習機関としての理念等を、広く周知する方策として有効であり、2010 年度の講座数は 153 講座、受講者数は 6,064 名となった。また、地方自治体からの連携講座の依頼もあり、2010 年度から茨城県大子町との連携講座が始まった。

#### (2) 改善すべき点

新規講座の提案が増加するに伴い、生涯学習センターの理念・目的から離れた公開講座の提案も増加している。

##### 将来に向けた発展方策

本学における研究成果及び教育機能を活用するという生涯学習センターの理念について、部局長会議等において、教員に周知すると共に、教員に公開講座の企画提案を依頼し、大学内の知的財産を有効活用する。

2012 年度より千葉県流山市等の地方自治体との連携講座を増設し、地域連携の強化を図る。

##### 根拠資料

- ・学校法人東京理科大学生涯学習センター規程
- ・平成 23 年度第 1 回生涯学習センター運営委員会 H23.6.20 (資料 1-2)

#### (2) 大学・学部・研究科等の理念・目的が、大学構成員（教職員および学生）に周知され、社会に公表されているか。

##### 現状説明

生涯学習センターホームページにて、理念・目的を周知している。また、学生向けリー

生涯学習センター

フレットを本学学生に配布している。

他大学生涯学習機関に対して、情報交換のため、本学の生涯学習センターパンフレットを送付している。

#### 点検・評価

##### (1) 効果が上がっている点

過去受講実績のある一般市民に対し、パンフレットを送付しており、継続受講生の獲得と、理念の周知に役立っている。

本学学生の受講者数については2010年春夏期が1,009人に対し、2011年春夏期は1,095人と増加している。

##### (2) 改善すべき点

受講実績のない一般市民に対しては、主に生涯学習センターホームページで理念を公表しているが、現在の生涯学習センターホームページは、作成当初から時間が経過しており、コンテンツ・デザインの面において改良の余地がある。

#### 将来に向けた発展方策

2012年度にホームページのコンテンツ・デザインをリニューアルし、受講実績のない一般市民に対して、より広報効果の高いホームページを構築することで、受講者数の増加、理念の周知を図る。

#### 根拠資料

- ・東京理科大学生涯学習センター総合パンフレット
- ・理科大生のための公開講座 2011

##### (3) 大学・学部・研究科等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか。

#### 現状説明

全公開講座で受講生にアンケートを実施し、公開講座の満足度を調査している。その結果は、講師へフィードバックするとともに、次年度の公開講座企画の参考としている。公開講座企画については、生涯学習センター運営委員会において理念・目的に沿った公開講座であるか検証している。

#### 点検・評価

##### (1) 効果が上がっている点

理念・目的に沿った公開講座であるかを定期的に検証を行っているため、2007年度より毎年年間で5,000人以上の受講者を獲得できている。

##### (2) 改善すべき点

特になし。

#### 将来に向けた発展方策

今後は年間受講者数の観点からも、理念・目的の適切性について事後検証できるシステムづくりをする。目安となるべき一定の受講者数の基準を定め、生涯学習センター運営委員会において、基準を下回った場合、公開講座全般の理念・目的の適切性を再度確認する。

#### 根拠資料

- ・ 東京理科大学生涯学習センターアンケート用紙
- ・ 東京理科大学生涯学習センターアンケート集計結果
- ・ 学校法人東京理科大学生涯学習センター規程
- ・ 平成 23 年度第 1 回生涯学習センター運営委員会 H23.6.20（資料 1-2）

## 2 教育研究組織

(1) 大学の学部・学科・研究科・専攻および附置研究所・センター等の教育研究組織は、理念・目的に照らして適切なものであるか。

### 現状説明

生涯学習センターは、2001年に学校法人東京理科大学生涯学習センター規程が制定され、その運営体制が確立した。生涯学習センター長の他、理事長及び学長から指名された委員で構成する生涯学習センター運営委員会を中心として、各教員の協力のもと、理念・目的を達成するための活動を行っている。

生涯学習センターは、本学の研究成果及び教育機能を活用し、体系的な生涯学習プログラムを地域社会に提供することで、「大学から社会への開かれた窓口」としての姿を追求している。

### 点検・評価

(1) 効果が上がっている点

生涯学習センター運営委員会は、各地区から運営委員を選出しているため、各地区からの要望を効果的に吸い上げることができている。

(2) 改善すべき点

特になし。

### 将来に向けた発展方策

生涯学習センター運営委員会のもとに地域連携を進める組織（地域連携ワーキング等）を設置し、公開講座等の事業を展開することで、地方自治体との連携を強化する。

### 根拠資料

- ・学校法人東京理科大学生涯学習センター規程
- ・生涯学習センター運営委員会委員名簿（23.4.1 現在）

(2) 教育研究組織の適切性について、定期的に検証を行っているか。

### 現状説明

社会的評価は、公開講座の数や受講者数の増加によって知ることができる。

### 点検・評価

(1) 効果が上がっている点

生涯学習組織の適切性について定期的に検証しているため、2007年度より毎年年間で5,000人以上の受講者を獲得できている。

(2) 改善すべき点

特になし。

#### 将来に向けた発展方策

受講者数の継続的な獲得等社会的評価の他、アンケート集計等の手段を活用することにより、生涯学習センター運営委員会において、生涯学習組織の適切性について定期的に検証を行う。

#### 根拠資料

- ・ 東京理科大学生涯学習センターアンケート用紙
- ・ 東京理科大学生涯学習センターアンケート集計結果
- ・ 学校法人東京理科大学生涯学習センター規程
- ・ 平成 23 年度第 1 回生涯学習センター運営委員会 H23.6.20（資料 1-2）

## 7 教育研究等環境

### (1) 教育研究等環境の整備に関する方針を明確に定めているか。

#### 現状説明

生涯学習センターの公開講座は、東京理科大学森戸記念館会議室使用規程に基づき、森戸記念館の優先利用が認められている。そのため、公開講座は主に森戸記念館で開講し、その他、公開講座の内容によっては森戸記念館以外（各教室等）で開催している。

また、野田キャンパスで開講する公開講座では、主に講義棟を利用し、実験講座についてはセミナーハウスを使用している。

#### 点検・評価

##### (1) 効果が上がっている点

環境の整備により、2007年度より毎年年間で5,000人以上の受講者を獲得できており、結果的に社会へ本学の研究成果を還元できている。

##### (2) 改善すべき点

講座内容及び日程によっては受講者を収容可能な教室数が不足し、公開講座運営に支障をきたしている。

#### 将来に向けた発展方策

葛飾キャンパスが新設されることにより、教育研究等環境は変動が予想される。公開講座の定員・性質に鑑み、今後も本学の研究成果の還元に最適な会場を確保し、利便性の向上を図る。また、会場確保の際には関係部署へ事前に依頼をする等、連携をさらに強化していく。

#### 根拠資料

- ・東京理科大学森戸記念館会議室使用規程

## 8 社会連携・社会貢献

### (1) 社会との連携・協力に関する方針を定めているか。

#### 現状説明

生涯学習センターの社会連携・社会貢献については、学校法人東京理科大学生涯学習センター規程において、規定されている。

受講者アンケートから要望を把握し、生涯学習センター運営委員会において一般市民を対象とする各種公開講座を企画・開講することで、大学から社会への開かれた窓口として期待に込めている。

#### 点検・評価

##### (1) 効果が上がっている点

社会との連携・協力に関する目的を達成しているため、2007年度より毎年年間で5,000人以上の受講者を獲得できている。また、大子町・流山市等と連携することで、公開講座・科学体験教室等が本学以外でも開催できている。

##### (2) 改善すべき点

特になし。

#### 将来に向けた発展方策

民間企業及び地方自治体との連携を強化することで講座内容を充実させ、受講者数を増加させていく。

#### 根拠資料

- ・学校法人東京理科大学生涯学習センター規程
- ・平成23年度第1回生涯学習センター運営委員会 H23.6.20 (資料1-2)

### (2) 教育研究の成果を適切に社会に還元しているか。

#### 現状説明

生涯学習センターは、本学の最先端の研究成果に関する講座、神楽坂という立地を活かした講座(街歩き講座等)、理系総合大学の視点で文化を捉えた講座(浮世絵講座等)、本学独自の公開講座を開講している。

#### 点検・評価

##### (1) 効果が上がっている点

本学における最新の研究成果を適切に受講者に還元しているため、2007年度より毎年年間で5,000人以上の受講者を獲得できている。

##### (2) 改善すべき点

本学の研究成果及び教育機能について、情報交換が不十分なため、全てを把握できてはいない。

#### 将来に向けた発展方策

本学における研究成果及び教育機能を活用するという生涯学習センターの理念について、部局長会議等において、教員に周知すると共に、教員に公開講座の企画提案を依頼し、大学内の知的財産を有効活用する。

また、本学の知的財産を活かし、社会において大きく関心を集めている分野に対応した公開講座を企画する。

2011年3月の東日本大震災の発生を受けて、2011年秋冬講座として企画された「地震の揺れと建物の被害」もその一つである。

#### 根拠資料

- ・東京理科大学生涯学習センター総合パンフレット